

【命をつなぐ水】

福岡県 北九州市洞北中学校

二年

猪狩 睦月

二〇二四年。一月一日。石川県の能登半島を中心に強い地震が起こりました。建物の倒壊や津波による被害が発生していて、死者や多くのけが人が出ました。大きな地震が起きたのは午後四時ごろ。石川県志賀町で震度七を観測したほか、同じく石川県の七尾市や輪島市、珠洲市、穴水町で震度六強を観測しました。遠く離れた関東や近畿地方も大きく揺れました。石川県北東部の能登地方には、二〇一一年の東日本大震災以来となる大津波警報が出されました。マグニチュードは七・六と推定されています。一月二日は石川県輪島市の中心部で火災が発生して、海沿いの住宅街が火の海になりました。避難所には、家に帰れなくなった多くの人たちが身を寄せました。

私は避難所にいれば命は守れて、最低限の生活はできると思っていました。しかし、避難所にいる人たちは、「水が足りない。」と言っていました。食料は十分でも水は十分ではないのです。水がないと困ることは、洗面や入浴ができないこと、トイレを使うことができないこと、調理ができないことです。数日間洗面も入浴も難しい状況になると、ストレスがたまったり、衛生的に健康を害したりする恐れがあるそうです。

私は水に困ったことはありません。しかし、このようなことを知り、水の大切さが分かりました。災害時は、飲料用と調理用だけで一人当たり一日三リットルの水が必要といわれています。だから私は、今日から始められる節水に取り組んでみようと思います。

まず、普段の生活で水を使う量をできるだけ減らすことが大切だと考えました。家庭や学校で簡単に節水する方法はたくさんあります。たとえば、水洗トイレの水を流しすぎないこと、歯磨きのときはコップを使うこと、花だんの水やりは雨水タンクを利用することなどです。もし、トイレを六百人の生徒が一日三回し一回のトイレで二回流すと、一日で四万六千八百リット

ル使うことになります。一回のトイレで流すのを一回にすると二万三千四百リットルで半分の水の量になります。学校で節水をできるかはどれだけの生徒が節水意識を持てるかで変わってきます。少人数が節水するだけではほとんど節水効果がありません。しかし、生徒全員が「集団行動」の一環として節水を取り入れると大きな効果が得られます。だから、節水の大切さをたくさんの人が知り、節水に取り組んでみるのが大切だと思います。

また、近年では雨水や池の水など汚れた水をきれいに浄化してあつという間に飲料水にできる浄化装置が発明されています。これは、災害時にとでも便利です。この機械を持つておくと、飲むの水を手早く手に入れることができます。このことから、家庭にも一つ浄化装置を持つておくと、万が一災害が起きて水に困りにくくなると考えられます。しかし、このような装置は値段も高く、大きさもあり家庭用のものとしてはまだ作られていません。だから、早く家庭でも使えるそのような浄化装置が発明されてほしいです。

私は、大きな地震を体験したことがあります。しかし、もしものときに備えて水は準備しておくことが一番大切だと思います。そして、地震が起きなくても節水の大切さを知り、節水に取り組むことが災害が起きたときでも命をつなぐ水を使うことができることにつながります。

だから私は、水の大切さをこれからも伝えていきたいです。